



# アグリ情報 ちば



Agri Information CHIBA



1月5日(月) 初市の野菜宝船 (大田市場)

私たち全農グループは、**生産者と消費者を**  
**安心で結ぶ懸け橋** になります。



## CONTENTS

### 年頭のご挨拶

### 食と農を未来へつなぐ。

- 米の買取販売の拡大・実需者直接販売の拡大

### 営農情報

- 園芸野菜 病害虫防除情報

### 園芸情報

- 販売経過および情勢

### 米穀情報

- 米穀情勢

### 肥料情報

- ドローン対応肥料のご紹介

### 資材情報

- マルチ回収不要で省力化！  
生分解性マルチを使ってみませんか

### トピックス

- 令和7年12月5日～6日 近畿フェア  
「千葉の旬菜お届け便」開催
- 令和7年度千葉県農協A.T.A協議会総合技術研究会および  
水稻直は専門指導員認証式
- J Aタウン 愛情いちばん館

# 年頭のご挨拶



全国農業協同組合連合会千葉県本部  
運営委員会会長 松元善一

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
組合員、JAならびに関係機関の皆様におかれましては、ご健勝にて新たな年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、大雨や高温などの異常気象や、鳥インフルエンザをはじめとした重要家畜疾病等により、各地で多大な農業被害が発生しました。あらためて被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

農業を取り巻く環境は、昨年も大変厳しいものでした。国際情勢の不安定化、円安の進行、資材・燃油価格の高止まりなどにより、農業経営への負担は増す一方であり、記録的な猛暑は、生産・出荷に大きな影響を及ぼしました。

JA全農は、令和7年度を初年度とする「JA全農事業ビジョン2030」を策定し、長期的な事業の方向性と目標を明確にしました。これまで育んできた力をもとに、今後めまぐるしく変化する事業環境に柔軟に対応してまいります。また、一昨年の夏場以降、米の生産・流通・消費に対して社会的な関心が高まっております。そのような中、昨年は政府備蓄米の流通にあたり、全農グループの総力を結集させ、販売先からの出荷要請にもとづき、計画どおり昨年8月末までに販売を完了しました。生産者の営農継続と地域農業の振興が全農グループの存在意義であり、「持続可能な農業と食の提供のためにはなくては“ならない全農”であり続ける」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。

また、JA全農ちばとしては、生産基盤の維持・拡大に向け、高温対策など、行政と連携して取り組みを早急にすすめるとともに、生産資材のトータルコスト低減、実需者ニーズにもとづく販売提案により、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」の実現に向け、役職員一丸となってすすめております。引き続き、千葉県農業の維持発展に寄与するため、常に進化し、次世代へとつなげるよう、これからも取り組んでまいります。加えて、千葉県産農畜産物が継続して選ばれるよう、安全安心で高品質な農畜産物を消費者へお届けするとともに、「オール千葉」体制強化のため、さらなる系統結集をすすめてまいります。さらに持続可能な農業のため、適正な価格形成の実現に向けた消費者や実需者への理解醸成に取り組んでまいります。

今後とも、本会事業へのご理解とご協力をお願いするとともに、本年が皆様と千葉県農業にとりまして新たに飛躍する年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

JA全農ちばの取組状況  
米 穀 部

# 米の買取販売の拡大・ 実需者直接販売の拡大

食と農を未来へつなぐ  
JA全農ちばの取組状況

## 1. 取組目標と内容

生産者の手取り早期確定による農業経営の安定をはかるため買取販売を拡大し、実需者に対する安定供給を継続するとともに、生産者に対しては実需者ニーズに基づく生産を提案しています。

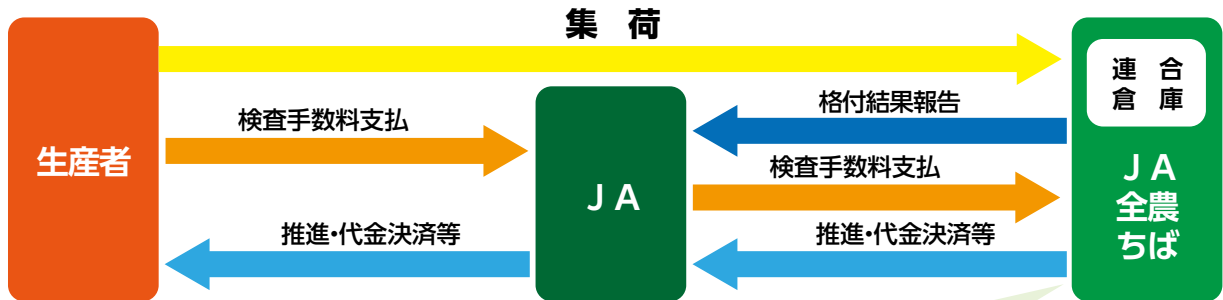
## 2. 自己改革の進捗状況

### (1) 買取販売の拡大

- 米穀卸と販売数量の事前契約を結び、販売先の確保に取り組んでいます。
- JA・千葉県農業者総合支援センターと連携し、大規模担い手生産者からの直接集荷に取り組んでいます。

令和7年産米実績：6JA 1,464.1トン（前年比131%）

### 直接集荷フロー図



連合倉庫で農産物検査をする検査員



### (2) 実需者直接販売

- 生協・量販店・業務用取引先および米穀卸との契約を結び、安定した取引を継続的に取り組んでいます。
- 大規模大規模担い手生産者（120名）を対象に多収品種導入による反収の向上や作期分散を目的に実需者提携米の契約栽培を提案し、実需に結び付けた販売をすすめています。

令和7年産米実績（見込）：1,734.1トン（前年比136%）

## 3. 今後の取り組み

引き続き、生産者の農業経営の安定化に向けて、実需者ニーズに基づく提案や需要に応じた生産販売に取り組んでまいります。

# 園芸野菜 病害虫防除情報

## 1. はじめに

気象庁発表の1か月予報によると、1月は晴れの日が多くなり、平年よりも気温が高くなる見込みとなっています。病害虫の発生は、年内から比較的少なく推移していますが、この時期から病害虫を発生させてしまうと、春先の被害が大きくなるリスクがあります。引き続き、病害虫発生前から発生初期までのタイミングで防除を徹底しましょう。

## 2. きゅうり — コナジラミ類・アザミウマ類

微小害虫対策で重要なことは、害虫をハウスへ**侵入させない**ことです。コナジラミ類やアザミウマ類は越冬作型のハウス内やハウス周辺の雑草等に生息しており、風や人・モノの移動によりハウス内へ侵入します。栽培初期に発生してしまうと、ウイルス病等のリスクも大きくなります。基本的な対策を徹底することが重要ですので、下記の事項を再確認しましょう。

- ハウス開口部や風上側など害虫が飛び込みやすい箇所には0.4mm目合いの防虫ネットを展張。
- 防虫ネット等にほつれが無いか確認しましょう。
- 側窓・天窗下などに黄色粘着板を吊るし、予察・捕殺を行いましょう。
- 害虫が発生しているハウスに入った際は、出る前に作業服をよくはたきましょう。
- 前作残渣は、きちんと枯らしてから処分しましょう。

タバココナジラミはウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）を、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそウイルス（MYSV）を媒介するなど、コナジラミ類やアザミウマ類はウイルスを媒介する害虫です。害虫による直接的な被害防止と同時に、これらウイルス病の蔓延防止のためにも発生初期の防除を徹底しましょう。



葉に寄生するコナジラミ幼虫（左）と成虫（右）

アザミウマ成虫

### (1) 耕種的・物理的防除

薬剤による防除のみに頼ると防除は不十分です。薬剤防除を行う前に**発生源となる周辺雑草の除去、施設への防虫ネット（0.4mmが好ましい）の設置**が重要な対策となります。また、**コナジラミ類は黄色**、**アザミウマ類は青色**の粘着板による発生予察に努めましょう。

### (2) 薬剤防除

#### ● きゅうり コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤

対象病害※1	IRACコード	薬剤名	希釈倍数※2	使用時期	使用回数
コ	9B	コルト顆粒水和剤	4000	収穫前日 まで	3回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	1000		2回以内
	15	マッチ乳剤	2000		3回以内
コ・ア	6	アフーム乳剤	2000	まで	2回以内
	28	ベネピアOD	2000		3回以内
	30	グレーシア乳剤	2000		2回以内

※1 コ：コナジラミ類、ア：アザミウマ類

※2 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

● 薬剤使用時のポイント

- (1) 粒剤・灌注処理剤は根から成分が吸収されることで効果を発揮します。使用方法を守って使用しましょう。
- (2) コナジラミ類・アザミウマ類はどちらも下位葉裏側から寄生を始めます。発生状況を確認し、発生前～発生初期に防除を行いましょ。極初期発生はヒザより下からなので、株元にしゃがみ、葉の裏をよく観察しましょう。
- (3) 同じ系統（IRAC）の薬剤の連続散布は避けましょ。アザミウマ類はおよそ10～14日、コナジラミ類は21日ほどで卵から成虫になります。散布後はこの期間が経過する前に発生状況を確認し、次の防除時期を検討ましょ。



3. いちご — うどんこ病・灰色かび病 予防主体の防除を！

(1) うどんこ病

いちごのうどんこ病は、はじめ葉裏から発生することが多く、感染が拡大すると葉表や葉柄、果実にも被害が及びます。未熟な果実に発生した場合、肥大が悪くなるほか、成熟しても果色が悪く味も低下してまします。胞子の発芽適温は17～20℃前後で、空中に飛散して広がります。開花結実期に発病すると被害が大きくなるため、予防主体の徹底した防除を行いましょ。



葉に発生したうどんこ病

(2) 灰色かび病

いちごの灰色かび病は、はじめ枯死した下葉などで病原菌が寄生増殖し、感染が拡大すると主に果実を中心に、果梗や葉柄、葉を侵します。果実が発病すると、褐変して灰色のカビを生じます。病原菌の発育適温は23℃ですが、最低2℃でも発育まします。また、過繁茂状態や湿気の高いところは発病が多くなるため、薬剤防除のみに頼らず、施設内の環境改善にも取り組みましょ。



果実に発生した灰色かび病

(3) 薬剤防除

● いちご うどんこ病・灰色かび病 防除薬剤

対象病害	FRACコード	薬剤名	希釈倍数※1	使用時期	使用回数	備考
うどんこ病	3	トリフミン水和剤	3000	収穫前日まで	5回以内	予防・治療
	50	クロスアウトフロアブル	3000		3回以内	予防・治療
	M7	ベルコートフロアブル	2000		5回以内	予防
うどんこ病	7	ケンジャフロアブル	1500		3回以内	予防
	9	フルピカフロアブル ※2	2000		3回以内	予防
灰色かび病	7+11	シグナムWDG ※3	2000		2回以内	予防・治療
	9+U13	ショウチノスケフロアブル ※2	2000	2回以内	予防・治療	
灰色かび病	12	セイピアーフロアブル20	1000	3回以内	予防	

※1 希釈倍数は登録のうち最大濃度を示しています（例：2000～3000倍登録→2000）

※2 フルピカとショウチノスケは同成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて3回以内）

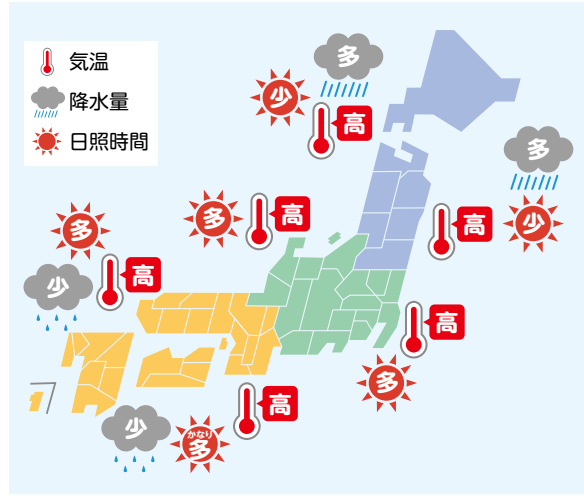
※3 シグナムはカンタスの成分を含むため成分総使用回数に注意（合わせて3回以内）

園芸情報

# 販売経過および情勢

## 青果物 12月の販売経過

気温は、冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に高い日が続きました。降水量は、低気圧の影響を受けた北日本で多く、高気圧に覆われた西日本で少なくなりました。日照時間は、高気圧に覆われた西日本太平洋側でかなり多く、東日本全体と、西日本の日本海側でも多かった一方で北日本では少なくなりました。



**【野菜】** 東京都中央卸売市場の野菜の入荷量は110,477 tと、前年を上回りました。暖かな日が続き、日照も多かったことから生育がすすみキャベツ、レタス、ほうれん草などが大幅に増加しました。まただいこん、にんじんなどの根菜類も前年を上回る入荷量となりました。一方で夏場の高温・干ばつの影響から小玉傾向のトマト、馬鈴薯が前年を下回りました。価格は高温となった前年を下回ったものの、年末で荷動きが高まり307円/kgと比較的堅調な単価で推移しました。

**【果実】** 同市場の果実全体の入荷量は47,772 t、うち国産果実は46,069 tと前年を上回りました。みかん類は豊作傾向で推移したため、前年を大幅に上回りました。いちご類は定植遅れの影響が懸念されたものの入荷量は前年を上回りました。価格は国産果実で545円/kgと前年を下回りました。

※東京都中央卸売市場統計データによる

### 東京都中央卸売市場の野菜・果実入荷量および単価（12月）

	数 量		単 価	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)
野 菜	110,477	103	307	87
果 実	46,069	124	545	87

### JA全農ちばの販売状況（12月）

	数 量		単 価		取 扱 額	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)	(百万円)	前年比 (%)
野 菜 計	39,643	117	158	74	6,266	87
果 実 計	74	67	2,475	108	184	72
だいこん	10,566	106	75	69	790	73
にんじん	10,325	107	158	102	1,629	110
キャベツ	9,893	182	80	38	788	70
ほうれん草	112	93	422	81	47	76
ね ぎ	1,250	102	401	83	501	85
春 菊	120	102	892	84	107	86
レ タ ス	493	86	226	50	112	43
パ セ リ	29	123	1,534	55	45	67
きゅうり	950	78	453	91	430	71
ト マ ト	436	169	496	89	216	150
さつまいも	3,210	108	232	99	744	107
い ち ご	72	65	2,539	111	183	72

# 1月主要品目

## 作付動向・作柄状況

見通し基準（前年対比）	
多・高	+10%以上
やや多・やや高	+5%～10%
並	±5%以内
やや少・やや安	-5%～10%
少・安	-10%以上

入荷量・価格は東京都中央卸売市場の集計です

品目	入荷量 (t)		単価(円/kg)		主産地	作柄および概況
	当年見通し	前年実績	当年見通し	前年実績		
キャベツ	多	10,456	安	235	愛知 千葉 神奈川	各産地の生育は概ね順調。出荷量は小玉傾向で少なかった前年を上回る見込み。価格は業務需要の引き合い鈍く、堅調な販売となった前年を下回る見込み。
だいこん	並	9,325	安	131	千葉 神奈川	全国的に大根の生育は概ね順調で出荷量は前年並みを見込む。青果物一般的に他青果物も生育順調で出荷量が多い予想から、販売環境は厳しく価格は前年を下回る見込み。
にんじん	並	5,314	やや安	193	千葉 埼玉	適度な晴天と降雨のため生育は回復しつつあり前年並みの出荷量を見込む。価格は、量販店の荷動きが鈍いことから、高値であった前年は下回る見込み。
トマト	やや多	4,258	やや安	476	熊本 栃木 愛知	各産地で生育は順調に推移しており、不作であった前年を上回る出荷が見込まれる。厳冬期のため需要が低下し、高値となった前年を下回る価格を見込む。
きゅうり	並	4,051	やや高	487	宮崎 千葉 高知	例年ほど滞留在庫がないため上旬は保合の販売となり、下旬は恵方巻需要で価格が上昇する見込み。月を通しての入荷量は前年並みで、価格は前年をやや上回る見込み。
ねぎ	やや多	3,463	安	502	千葉 茨城	各産地ともに欠株は少なく生育良好で太物比率が多いため、出荷量は前年を上回る見込み。価格は業務需要や鍋物需要があるものの高かった前年を下回るものの、平年は上回る見込み。
ほうれん草	並	1,476	やや安	663	群馬 茨城 馬城	各産地でハウス中心の出荷が続き、前年並みの出荷量を見込む。価格は、青果物全般で荷動きが鈍いことから、下旬にかけて徐々に弱めとなり、軟調な販売展開が続く見込み。
パセリ	やや多	28	やや安	2,285	千葉 静岡 葉岡	主力産地の生育は順調のため前年を上回る出荷量の見込み。価格は、業務需要も落ち着いてくることから、中旬以降は軟調な販売展開が続く見込み。
春菊	やや多	268	やや安	993	千葉 栃木 茨城 群馬	暖冬傾向により、主産地の作柄は良好で、出荷量は前年を上回る見込み。出荷量は安定しており葉物類の荷動きも鈍いことから、価格は前年をやや下回る見込み。
レタス	多	4,056	安	332	静岡 岡山 長崎 香川	年内に低温や干ばつで生育が停滞したことから、1月はまとまった出荷量が予想される。作付面積の減少から全体量は減っているが、各主力産地の出荷が集中するため、軟調な販売展開を見込む。
なばな	多	158	安	1194	千葉 香川	各産地で高温時期を避け播種時期を遅らせたため、出荷量がまとまる見込み。主力産地の出荷が集中するため、潤沢な出荷が予想されることから、軟調な販売展開が見込まれる。
さつまいも	やや多	2,778	やや安	274	千葉 茨城 葉城	掘り取り作業時の降雨や低温の影響からイタミの発生が懸念されるが、作付面積増によりやや上回る出荷量を見込む。価格は、前年を上回る出荷となるため軟調な販売展開を見込む。
いちご	多	3,515	やや安	1,985	栃木 茨城 馬城	各産地で定植を遅らせたことから、潤沢な出荷が見込まれる。需要期を過ぎたことから価格は弱めとなり、出荷もまとまるため前年を下回る推移となる見込み。

# 花 販売情勢

## ◆12月の販売経過【切花】

前年は、夏場の猛暑や秋口まで続いた高温の影響から不安定な入荷となりましたが、本年は、夏場は猛暑となったものの、秋口以降、気温の低下が早かったことから平年並みの入荷となりました。

販売については、上・中旬は、松市・千両市を控えていたことから洋花については厳しい販売となりましたが、季節商材やお稽古商材は不足感が強く安定した販売となりました。下旬においては、菊類やユリ類などを中心に迎春需要から安定した荷動きとなりました。

松市・千両市において、松は、夏場の猛暑の影響は品質面では少なかったものの、入荷量は前年を下回るものとなりました。しかし、物価高の影響もあり、上位等級中心に荷動きが鈍く厳しい販売となりました。千両は、安定した品質の品物が多かったものの、病害の影響もあり、入荷量は前年を下回りました。販売については、入荷量が少なかったことから不足感が強く、安定した販売となりました。

## ◆今後の見通し（2月）【切花】

前年は、年内から続く低温の影響から生育が遅れ、平年を下回る出荷量で推移しました。本年においては、今後の天候次第ではありますが、生産量が減少している産地も多いことから、平年を下回る出荷量となることが見込まれます。

販売については、中旬はフラワーバレンタイン需要に伴い、バラやチューリップを中心とした洋花の赤・ピンクなどの色目を中心に動きが出る見込みです。その他の時期においては、大きな業務需要もないため、落ち着いた荷動きとなる見込みです。



## ◆今後の見通し（2月）【品目別】

品 目	作 柄 お よ び 概 況
ス ト ッ ク	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉を中心とした出荷。</li> <li>例年、気温の低下から出荷量が減少する時期であるものの、天候次第では生育前進となり、月後半から出荷増量となることが見込まれる。</li> <li>小売店向けの販売が中心となる見込み。</li> </ul>
カーネーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉・愛知などからの出荷。</li> <li>国産品は品質、出荷量ともに安定する見込み。輸入品については、中国産は春節の影響から入荷量がやや減少するものの、南米産は平年並みの入荷量となる見込み。</li> <li>業務を中心とした販売になる見込み。</li> </ul>
キンセンカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉を中心とした出荷。</li> <li>作付面積は減少しているものの、生育は順調であるため平年並みの出荷となる見込み。</li> <li>全体的に大きな需要も無いため、鈍い荷動きとなる見込み。</li> </ul>
ガ ー ベ ラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉・愛知・静岡などからの出荷。</li> <li>天候次第ではあるものの、各産地とも作付面積が大きく変わっていないため、平年並みの入荷となる見込み。</li> <li>バレンタイン需要中心の販売となる見込み。</li> </ul>
菜 の 花	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉・愛知・和歌山などからの出荷。</li> <li>各産地、生育は順調であるため、平年並みの入荷となる見込み。</li> <li>桃の節句に向けて動きが出る見込み。</li> </ul>



# 米 穀 情 勢

## 1. 令和7年産うるち米の農産物検査結果について

令和7年11月末時点における全国のうるち米農産物検査数は、主食用米の作付が拡大したことから、前年同時期107%の3,875,748トンと増加しています。千葉県においても180,715トンと、前年同時期110.8%と増加しています。

全国の1等比率は、高温や濁水により品質低下が懸念されたものの、大きな落ち込みはありませんでした。千葉県でもカメムシ被害や白未熟粒の発生がありましたが、1等比率は全銘柄とも80%台となっており、昨年より上昇しています。

【図表1】うるち米の農産物検査結果（11月末時点）

（単位：トン、%）

	検査数 (11月末時点)	7年産				6年産		検査数 前年同期比 (11月末時点)
		等級比率				検査数 (11月末時点)	1等比率	
		1等	2等	3等	規格外			
全国計	3,875,748	75.7%	19.6%	3.6%	1.0%	3,608,299	76.1%	107.4%
千葉県	180,715	84.3%	13.6%	1.6%	0.5%	163,109	78.3%	110.8%
ふさおとめ	23,734	88.2%	9.9%	1.5%	0.4%	19,187	86.9%	123.7%
ふさこがね	63,089	85.4%	13.2%	1.1%	0.3%	52,717	75.5%	119.7%
コシヒカリ	64,238	84.6%	13.8%	1.3%	0.3%	68,659	79.1%	93.6%
粒すけ	10,374	82.6%	15.3%	1.6%	0.5%	9,251	76.8%	112.1%

## 2. 米の販売数量等の推移（令和7年11月末）

令和7年12月24日行われた食糧部会の「米の需給に関する参考資料」によると、令和7年11月単月の米穀販売事業者の販売数量は、対前年比90.8%となっています。うち、中食・外食事業者等向けは対前年比89.9%、小売事業者向けは対前年比91.7%とともに下回っています。量販店での新米販売は鈍いうえ、外食事業者等でも米の使用量を減らしている状況が見受けられます。

【図表2】米穀販売事業者における販売数量の動向

	7年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	94.1%	89.2%	86.3%	91.9%	92.7%	87.7%	93.9%	84.4%	99.0%	106.5%	91.7%	
(※令和元年との比較)	(103.7%)	(99.4%)	(93.5%)	(100.1%)	(105.7%)	(102.5%)	(96.8%)	(89.2%)	(85.5%)	(90.5%)	(87.5%)	
中食・外食事業者等向け	100.9%	95.4%	98.0%	97.0%	90.0%	97.7%	93.4%	91.0%	93.6%	92.6%	89.9%	
(※令和元年との比較)	(96.4%)	(95.6%)	(92.8%)	(91.2%)	(91.5%)	(94.7%)	(90.2%)	(88.3%)	(91.5%)	(92.7%)	(89.5%)	
販売計	97.2%	91.9%	91.3%	94.0%	91.6%	91.7%	93.6%	87.4%	96.4%	99.5%	90.8%	
(※令和元年との比較)	(100.1%)	(97.6%)	(93.2%)	(96.0%)	(99.3%)	(99.0%)	(93.8%)	(88.8%)	(88.2%)	(91.5%)	(88.5%)	

※令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

## 3. 民間在庫の推移

農林水産省の「米穀の取引に関する報告」によると、令和7年11月末時点における全国の民間在庫量は、329万トンと前年同時期から70万トン増加しています。この統計は、年間仕入量5,000トン以上の集荷団体および同500トン以上の出荷業者、同4,000トン以上の販売事業者が調査対象となっていますが、流通が多様化している現状を勘案すると、実際には統計以上の在庫が存在することとなります。主食米生産量が前年より大幅に増加したことに加え、販売が低迷していることから、今後も過剰状態が継続するものと想定されます。

【図表3】民間在庫量の推移（全国・出荷段階+販売段階）

（単位：万玄米トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
6/7年	82	65	149	245	260	253	229	205	180	168	148	121
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲34	▲12	+3	+6
6年産米	1	13	112	213	234	234	215	193	170	155	128	106
1年古米(5年産)	74	47	31	23	18	11	7	5	4	9	15	11
7/8年	92	84	197	306	329							
対前年差	+10	+19	+48	+62	+70							
7年産米	0	16	146	261	290							
1年古米(6年産)	82	62	44	36	30							

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」  
注：1. 水稲うるちのみおよび水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
2. 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
3. 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
4. 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

## 4. 令和7年産における水田活用予算の見直しの主な変更点

令和7年12月24日行われた食糧部会の「米をめぐる状況について」にて、令和8年度における水田活用米穀等の国の事業は概算決定情報が提示されています。

水稲における主な変更点は次のとおりです。

- ア. 水田活用米穀の直接支払交付金のうち、飼料用米（一般品種）の基準助成額が、6.5万円/10aに減額
- イ. コメ新市場開拓等促進事業において、新市場開拓用米、加工用米、米粉用米で多収品種を作付する場合に0.5万円/10aの加算（\*千葉県における多収品種の設定は未定）
- ウ. 要件に合致した酒造好適米について、取組年数に応じ最大3.0万円/10aの一括支援

【図表4】水田活用直接支払交付金等

**<政策目標>**

- 麦・大豆の作付面積を拡大（麦29.4万ha、大豆16万ha〔令和5年度〕→麦32.8万ha、大豆17万ha〔令和12年度まで〕）
- 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 米（加工用米・新規需要米を含む）の増産（米の生産量791万t〔令和5年度〕→818万t〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>	<事業イメージ>																
<p><b>1. 戦略作物助成</b> 水田を活用して、麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米を生産する農業者を支援します。</p> <p><b>2. 産地交付金</b> 「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色をいかした魅力的な産地づくりに向けた取組を支援します。</p> <p><b>3. 都道府県連携型助成</b> 都道府県が転換作物を生産する農業者を独自に支援する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額（上限：0.5万円/10a）で国が追加的に支援します。</p> <p><b>4. 畑地化促進助成</b> 水田を畑地化し、高収益作物やその他の畑作物の定着等を図る取組等を支援します。</p> <p><b>5. コメ新市場開拓等促進事業 20,000百万円（前年度 11,000百万円）</b> 産地と実需者との連携の下、酒造好適米・新市場開拓用米等の生産性向上等に取り組む農業者を支援します。*6</p> <p style="font-size: small;">*6 予算の範囲内で、助成対象となる地域農業再生協議会を決定</p>	<p><b>戦略作物助成</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>対象作物</th> <th>交付単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>麦、大豆、飼料作物</td> <td>3.5万円/10a<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>WCS用稲</td> <td>8万円/10a</td> </tr> <tr> <td>加工用米</td> <td>2万円/10a</td> </tr> <tr> <td>飼料用米、米粉用米</td> <td>取量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a<sup>※2</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">※1：多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10a ※2：飼料用米の一般品種について、令和8年度については標準単価6.5万円/10a（5.5～7.5万円/10a）</p> <p><b>産地交付金</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p style="text-align: center;">国</p> <p style="text-align: center;">↓ 資金枠を配分<sup>※3</sup></p> <p style="text-align: center;">都道府県</p> <p style="text-align: center;">↓ 資金枠を配分</p> <p style="text-align: center;">地域協議会</p> <p style="text-align: center;">↓ 助成内容の設定も可能</p> </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid gray; padding: 5px; font-size: x-small;"> <p>資金枠の範囲内で都道府県が助成内容を設定</p> <p>地域協議会ごとの助成内容の設定も可能</p> </div> </div> <p style="font-size: x-small;">○ 当年産の以下の取組に応じて資金枠を追加配分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th>取組内容</th> <th>配分単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け（基幹作物のみ）</td> <td>2万円/10a</td> </tr> <tr> <td>新市場開拓用米の複数年契約<sup>※4</sup>（3年以上の新規契約を対象に令和8年度に配分）</td> <td>1万円/10a</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">※3：作付転換の実績や計画等に基づき配分 ※4：コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象</p> <p><b>畑地化促進助成<sup>※5</sup></b></p> <p>① 畑地化支援 ② 定着促進支援 ③ 産地づくり体制構築等支援 ④ 子実用とうもろこし支援</p> <p style="font-size: x-small;">※5：事業の詳細は予算編成過程で検討</p>	対象作物	交付単価	麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a <sup>※1</sup>	WCS用稲	8万円/10a	加工用米	2万円/10a	飼料用米、米粉用米	取量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a <sup>※2</sup>	取組内容	配分単価	そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け（基幹作物のみ）	2万円/10a	新市場開拓用米の複数年契約 <sup>※4</sup> （3年以上の新規契約を対象に令和8年度に配分）	1万円/10a
対象作物	交付単価																
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a <sup>※1</sup>																
WCS用稲	8万円/10a																
加工用米	2万円/10a																
飼料用米、米粉用米	取量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a <sup>※2</sup>																
取組内容	配分単価																
そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け（基幹作物のみ）	2万円/10a																
新市場開拓用米の複数年契約 <sup>※4</sup> （3年以上の新規契約を対象に令和8年度に配分）	1万円/10a																
<p><b>&lt;事業の流れ&gt;</b></p> <p style="font-size: x-small;">宮県計画書・交付申請書等の取りまとめ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>国</p> <p>↓ 交付</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>農業再生協議会等</p> <p>↓ 申請</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>農業者</p> <p>（1～3の事業、4・5の事業の一部）</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>国</p> <p>↓ 申請</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>都道府県</p> <p>↓ 申請</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>農業再生協議会等</p> <p>（4・5の事業の一部）</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↑ 定額</p>																	

## 5. 令和8年産政府備蓄米の買入れについて

令和7年12月24日行われた食糧部会の「米の需給に関する参考資料」によると、令和8年産の政府備蓄米の買入れについては、従来どおり一般競争入札により、1月以降で数回程度の入札を実施予定です。買入数量は、21万トン（8年産米）を予定しています。

また、買戻し条件付き売渡しおよび随意契約による売渡しに係る買戻しおよび買入は、流通関係者の予見性の確保及び年産構成の平準化の観点から、対象となる約59万トンを今後の需給状況等を見定めた上で実施すると示されています。

【図表5】8年産政府備蓄米の買入概要

<b>買入れの方法</b>	公平性・透明性を確保する観点から、従来通り一般競争入札により実施（基本指針に規定）
<b>入札の参加資格者</b>	国内産米穀の買入契約に係る一般競争入札に参加する者に必要な資格を有する者
<b>買入価格・落札者の決定</b>	予算決算および会計令に基づき、取引の実例価格、需給の状況、履行の難易、数量の多寡、履行期間の長短等を考慮して適正に予定価格を定め、低価の入札者から落札者を決定。
<b>買入開始時期</b>	年明け1月以降、数回程度入札を実施
<b>対象米穀・数量</b>	対象米穀 国内産米穀（水稲うるち玄米（1～3等）） 対象数量・年産21万トン（8年産）
<b>【入札スケジュール】</b>	例年1月～6月に7回程度入札を実施。

【図表6】政府備蓄米の売渡しに係る買戻し及び買入れ概要

<b>買入れの方法</b>	〈買戻し条件付き売渡しに係る買戻し〉随意契約（一般競争入札による政府備蓄米の買受者の中から、見積合せにより契約相手を決定） 〈随意契約による売渡しに係る買入れ〉一般競争入札
<b>販売開始時期</b>	今後の需給状況等を見定めた上で実施
<b>参加資格者</b>	〈買戻し条件付き売渡しに係る買戻し〉一般競争入札による政府備蓄米の買受者 〈随意契約による売渡しに係る買入れ〉国内産米穀の買入契約に係る一般競争入札に参加する者に必要な資格を有する者
<b>買入価格・落札者の決定</b>	〈買戻し条件付き売渡しに係る買戻し〉見積合せにより契約相手を決定 〈随意契約による売渡しに係る買入れ〉予算決算および会計令に基づき、取引の実例価格、需給の状況、履行の難易、数量の多寡、履行期間の長短等を考慮して適正に予定価格を定め、低価の入札者から落札者を決定
<b>対象米穀・数量</b>	対象米穀 国内産米穀（水稲うるち玄米（1～3等）） 対象数量・年産 全体で約59万トン ※年産は実施時期による

肥料情報

# ドローン対応肥料のご紹介

## ドローンでの肥料散布

現在、ドローンは農薬の本田防除を中心に普及拡大していますが、肥料の追肥にも利用することでドローンの活用範囲が広がります。

また、ドローン施肥をすることで、収量に直結する水稻などの追肥や近年の高温による品質低下の抑制について労働負担を少なくかつ、短時間で行う事が可能となります。



2024年 ドローン施肥の様子

## 可変施肥と圃場センシング

一部のドローンでは、可変施肥に対応している機種があります。ドローンや人工衛星にカメラを搭載して、圃場センシングと組み合わせることで生育のバラつきのある圃場には、効率的に施肥することが出来、収量の向上が期待できます。



圃場センシングの代表例  
Z-GIS・ザルビオ活用ガイド

## ドローン散布対応銘柄のご紹介

ドローン散布対応肥料の特徴としては、飛行時間と搭載量に限りがあるため、チッソ成分を高めています。

また、ドローン本体の腐食を防ぐために、粒状肥料などにはコーティングの加工がなされています。



◎化成肥料(粒)  
「セントラル尿素」  
(N-P-K：44.5-0-0)  
規 格：15kg袋

薄い皮膜によりべたつきリスクを抑え、ドローンを利用して空中散布が可能な高窒素成分の肥料です。



◎化成肥料(粒)  
「JコートQuick」  
(N-P-K：41-0-0)  
規 格：10kg袋

湿度が高い天候下でもタンクの中でべたつかず、ドローン散布時の作業効率が向上します。



◎液肥  
「コロン」  
(N-P-K：27-0-0)  
規 格：20kg

高濃度散布可能な窒素液肥です。水稻、麦、大豆のドローンでの葉面散布におススメです。



◎バイオスティミラント資材  
「ユートリシヤN」  
規 格：333g/袋  
使用量：33g/10a  
(333g/1ha)

空気中のチッソを固定して供給する新しい肥料。水稻から園芸まで幅広く使用でき、ドローン散布も可能。

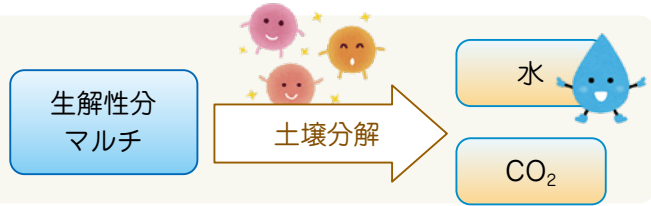
ご注文・お問い合わせは最寄りのJAまで

資材情報

# マルチ回収不要で省力化！ 生分解性マルチを使ってみませんか

## 1. 生分解性マルチとは

生分解性マルチは、土中にいる微生物の働きにより分解される樹脂を原料につくられた環境にやさしい資材です。



## 2. 生分解性マルチ導入のメリット

### (1) 省力化

収穫後はマルチをそのまま土中にすき込むことができるので、マルチのはぎ取り作業から解放されます。また、通常のポリマルチで発生する廃プラスチック処理にかかる土落としやつづら折り作業、運搬の手間がかかりません。

収穫後の片付けと次の作付け準備が重なる場合、生分解性マルチを導入することで、片付けの手間と時間を削減できます。これによって、規模拡大された事例も報告されています。

### (2) 廃プラスチック処理費の削減

廃プラスチックが出ませんので、廃プラスチック処理料がかかりません。

## 3. 通常マルチとの比較

令和5年度に県内JAにご協力いただいた実証試験における試算（さつまいも3件、落花生1件）

	通常のポリマルチ	生分解性マルチ
発生する作業	・剥ぎ取り作業 ・土落とし作業 ・運搬作業	・マルチ回収作業 ・つづら折り作業
購入費用比 (通常マルチを1とした場合)	1	2.2～3.8
トータルコスト (マルチ回収機がない場合)	1	1.6～2.7

トータルコスト※  
では約3割低減！

通常マルチには本体のほかに労務費や廃プラスチック処理費用が掛かります。

※トータルコスト…剥ぎ取り作業・マルチ回収・すきこみ作業にかかる労務費・廃プラスチック処理費用をコスト参入

## 4. 利用者の声

- 「マルチをはがす際、ポリマルチだと根が絡むなど重労働だが、生分解性マルチだとすき込みだけなので省力化や廃プラ削減に大きく貢献した。」（とうもろこし生産者）
- 「次作への切替がスムーズに行えた。」（枝豆生産者）
- 「強度もあり、機械展張しても問題なかった。また、作付面積（1ha以上）が大きいので、ポリマルチ使用時とトータルコストを比較すると、生分解性マルチの方がメリットは大きいと感じた。」（レタス生産者）

## 5. おすすめ作物

代表例 とうもろこし

とうもろこし・さつまいも・枝豆・レタス・  
じゃがいも・さといも・落花生など

マルチに根が刺さり、剥ぎ取りが非常に面倒ですが、生分解性マルチなら残渣とともにすき込むだけで、片付けが終わります。千葉県において生分解性マルチが数多く使われている作物の一つです。



お問い合わせはお気軽に最寄りのJAまたはJA全農ちば資材課（043-245-7379）へご連絡ください

# TOPICS

## 令和7年12月5日～6日 近畿フェア 「千葉の旬菜お届け便」開催



J A全農ちばは12月6日（土）～7日（日）、J A全農青果センター(株)協力のもと、近畿エリアで展開する(株)万代（まんだい）、(株)平和堂、オーケー(株)にて、近畿フェア「千葉の旬菜お届け便」を開催しました。

首都圏の量販店やスーパーを中心に、県内の秋冬野菜が本格化する11月に「千葉県フェア」を開催していますが、新たな販路の拡大と認知度向上を目的にここ数年近畿圏にてフェアを開催しています。

店舗ではだいこんやにんじん、キャベツ、ねぎなど千葉を代表する野菜が、お客さまの目を引くようにきれいに陳列をされて、次々と手に取られる様子がうかがえました。今年はポ



スター等の販促資材に加え、J Aちばみどり協力により青果版「大漁旗」、県産青果物で彩られた「宝船」を展示し、千葉県産青果物のPRを行いました。

また、J A全農青果センター(株)の大阪センターと連携した「近畿フェア」に加え、それぞれ新たな取り組みとして東京センターでは「コープみらい」、神奈川センターでは「東急ストア」と、3センター同時にフェアを開催しました。

J A全農ちばは、生産者と消費者の懸け橋として、千葉県産青果物の消費拡大につとめます。

株万代 八尾曙川店

## TOPICS

令和7年度 千葉県農協A.T.A協議会総合技術研究会  
および 水稻直は専門指導員認証式開会にあたり挨拶する  
同協議会の地引秀太会長（JA市原市）

千葉県農協A.T.A協議会は12月16日（火）と17日（水）、成田市市内のホテルで「令和7年度千葉県農協A.T.A協議会総合技術研究会および水稻直は専門指導員認証式」を開催しました。専門指導員認証制度は、専門化がすすむ担い手のニーズに応え、JA・地域農業を支える人材を育成することを目的としています。1日目に開催した認証式では、7JA12名の担当者が水稻直は専門指導員として認証を受け、併せて指導員による実践取り組み報告を参加者へ伝えました。

2日間にわたった総合技術研究会では、JA全農ちばや肥料・農薬メーカーから水稻の高温対策についてそれぞれ研修を行いました。水稻一発肥料の窒素溶出や高濃度窒素液肥「CORON」によるドローン空中施肥、殺菌・植物成長調整剤「フジワン®粒剤」、リゾケアXLに最適な除草剤などについて説明し、高品質な令和8年産米の栽培に向け参加者たちと対策を確認しました。また、情報提供として、JA全農ちばが取り組んでいる「ドローンによる農薬等請負事業<sup>(※)</sup>」についても紹介しました。

そして、JAかとり指導経済部営農生活課の鈴木達也担当から減ブラや粉殻有効活用に関する役員視察研修の報告が行われたほか、千葉県農林水産部や千葉県農林総合研究センター、JA全農からは、「みどりの食料システム戦略」の動向やねぎ圃場へのバイオ炭施用に向けた取り組み、ねぎ・さつまいも・とうもろこしのBS資材について紹介され、活発な質疑応答がなされました。

さらに今回の研究会では、JA安房営農部担い手支援課の諏訪優主任が「広報活動による担い手支援」をテーマに、自らの改革的な事例の紹介とともに、広報と営農の連携の重要性を力強く発表しました。現場の最前線である営農担当者が広報担当者と密に情報を共有することは、「農業とJA」を「地域と未来」につなぐと説明し、各JA内での協力を呼びかけました。参加者からも前向きなコメントが寄せられ、現場が一体となった、より一層の広報活動が期待されます。

参加者は、研修で得た情報・知識を持ち帰り、生産者の皆さまへの適切な営農指導に繋げてまいります。

参加者は、研修で得た情報・知識を持ち帰り、生産者の皆さまへの適切な営農指導に繋げてまいります。

営農と広報の連携について  
力強く話す諏訪主任（JA安房）

今回認証を受けた皆さま

## 当日の様子はこちら



URL : <https://www.zennoh.or.jp/cb/topics/2026/107886.html>

## ★ぜひご活用ください！

(※)JA全農ちばが提供する「ドローンによる農薬等請負事業」

水稻や園芸作物への防除・液肥散布はもちろん、高温対策としてハウスの遮光・遮熱剤塗布にも活用できます。令和7年度は7JAで遮光資材の塗布を実施しました。高温環境の中での作業負担を軽減し省力化となるだけでなく、危険な作業からも解放されます。詳しくは、最寄りのJAまでお問い合わせください。

JA全農インターネット通販

千葉県産農畜産物のご贈答・お取り寄せなら

2026年も  
よろしく  
お願いします!!



# JAタウン JA全農ちば 愛情いちばん館

ほんの一例です/  
**主な取扱商品**

JAタウン“JA全農ちば 愛情いちばん館”では、  
産地自慢の「ちばの味」を全国へ産地直送でお届けしています。  
贈り物やご自宅用に是非ご利用ください。

## JAかとり『多古のべにはるか』ねっとり食感!

ねっとりとした食感が特徴の「べにはるか」。千葉県北東部、JAかとり多古野菜集出荷場管内の肥沃な大地で、自然の恵みと生産者の愛情をいっぱいを受けて育ったさつまいもです。時間をかけて加熱するといっそう甘みが出るため、電子レンジよりもオーブンやオーブントースターでじっくり加熱調理するのがおすすめです!



## ながいき葉玉ねぎ

葉玉ねぎは、玉ねぎの玉が大きく丸く育つ前に葉つきのまま収穫したJA長生自慢の春野菜です! その甘さと柔らかい歯ざわりは、まさに九十九里浜の春風を感じさせます。和風・洋風いろいろな料理でお楽しみください♪



## ながいき葉にんにく

葉にんにくは、にんにくの球根が肥大する前の若葉ごと収穫したJA長生自慢の春野菜です! クセがないので、どんな料理にも合わせることができます。上品な甘みと食欲をそそる奥深い香りをお楽しみください♪



## 君津のカラー☆エレガンス 5本×2束(10本)



くるりと巻いたシンプルな花(仏炎苞)に、すーっとのびやかな茎! カラー生産者組合「ブルームネット」が心をこめて栽培した自慢のカラーをお楽しみください♪

## 米粉 1kg × 5個入



野田市産の黒酢米でできた米粉です! 黒酢米は、『玄米黒酢農法』で作られた米で、農薬の代わりに玄米黒酢を散布して栽培されています。お菓子作りなどに是非ご利用ください♪

## JAタウン「JA全農ちば 愛情いちばん館」ショップ

野菜・果物・お肉・農産物加工品・海の幸・お花等様々な商品を取り揃えております。

<https://www.ja-town.com/shop/c/c3401/>

※御電話での注文は承っておりません、ご了承ください。

お問い合わせ 全国農業協同組合連合会 千葉県本部 営農園芸部 園芸直販課 TEL 043-245-2911



愛情いちばん館HP



愛情いちばん館

検索

ACoOP 安心と信頼の ACoOPの茶葉

組合員・利用者のみなさまへ

※写真・イラストはイメージです

# 新茶 2026

エーコープ

ご予約承り中!

旨味と香りの  
絶妙ブレンド



宝玉 白茶 紫鳳

## 2025年 当選した方の声

毎年購入しているが、初めて当選したので驚いた！とてもうれしい。

千葉県内で10人しか当たらないのに、ありがとうございます。

長年お茶を買っているのですが、こういうキャンペーンがあると楽しみが増える。

当選した商品がおいしかったので、JAに注文しました。

## 新茶キャンペーン

対象商品 15,000円(税込)以上ご購入頂いた方の中から抽選でプレゼント!!

**A賞**

選べるホーム&キッチン家電  
(シャープ製: オープンレンジ・  
ホットクック・掃除機 他)

10本



**B賞**

エーコープマーク品等詰合せ

500本



**全農**

JA全農グループ

製造者 ハラダ製茶株式会社

ご注文・お問い合わせは、最寄りのJAへ

### お知らせ

JA全農ちばは、「アグリ情報“ちば”」が生産者の皆さまとの情報交換の場となるよう努めて参ります。身近な話題、ご意見、ご要望などございましたら、下記連絡先までお寄せください。

### アグリ情報“ちば”に係る 個人情報の取り扱いについて



組合員の皆さまからご提供いただきました個人情報、は、「アグリ情報“ちば”」送付の目的にのみ使用いたします。

**JA全農が提供するラジオ番組**

**ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN**

13:00~13:55 毎週 **生放送**  
全国の農畜産物をプレゼントします。

15:50~16:00 毎週 **生放送**  
生産者の声や開発の道のりなど商品の魅力を紹介します。

**Tokyofm**  
Life time audio 80.0

SCHOOL OF LOCK!  
THURSDAY 23:00

# 農業部

Supported by **全農**

23:00~23:06 毎週 **生放送**  
農業について一緒に楽しく学びましょう。

発行/全国農業協同組合連合会千葉県本部 令和8年1月15日発行(毎月1回15日発行) 通巻第187号  
編集・発行部署/管理部 総合企画課  
〒260-0031 千葉市中央区新千葉3-2-6 電話043-245-7360 FAX043-247-9715

「アグリ情報ちば」の宛名・送付先の変更や送付の停止をご希望の方は、JA全農ちばホームページのお問い合わせページにご住所・お名前を明記のうえご連絡ください。新規お申込みをご希望の場合は、お電話にて承ります。

送付先の変更・停止



JA全農ちば  
公式HP



JA全農ちば  
公式Instagram

